

丸山重威著、東京外環道訴訟を支える会編
『住宅の真下に巨大トンネルはいらない！
—ドキュメント・東京外環道の真実』

あけび書房 03-3234-2571
本体価格 1600円

「あなたの家の地下に——巨大なトンネルが地下を這う巨竜のように、のたうっていく——。そんなことが許せませんか」との問いでこの本ははじまります。
「東京外環道」は東京の外側をコンパス

で描くようにまわる環状道路です。

計画されたのは一九六六年。全国に広がった公害反対の声と住民運動で事実上全面凍結。安倍政権による産業インフラ整備や国際競争力強化などを名目に息を吹き返し、巨額の財政が投入されています。工事による水枯れ、騒音、振動、低周波、排ガス被害のほかに、「大深度地下法」によって地下四〇メートル以深なら区分地上権は及ばないとされ、何の補償もなく事業者が勝手に掘り進めるのです。「巨大トンネルはいらない」との住民運動の歴史書ともいえます。

(高)